

iBEAM / iBEAM Active

USER'S GUIDE

エルールバッグスの製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。アイビームは表甲がXプレーシングでブリッジピンのついているスティール弦ギターであれば容易に取付けが可能です。ただし取付けに際しては経験のある専門店のお店又はリペアマンにご相談下さい。誤った取付けでアイビーム又はギターそのものにダメージや問題が起こった時は保証対象とはなりませんのでお気をつけ下さい。

iBEAM・取付けマニュアル

<重要です・まずお読み下さい>

- (1) iBEAMとiBEAM ActiveはX-プレーシングのスティール弦ギター用に開発されたピエゾシステムです。図1のように平らで十分なスペースがXプレーシングの間にあることが必要です。
- (2) 取り付けのジグは通常の弦止めのブリッジピンがあるギターでのみ使用可能です。ブリッジピンがない場合は図3のスペースの範囲内に取付けます。
- (3) iBEAM本体の両側からそれぞれ1/2インチ (12.7mm) のあたりに穴がありますがここに何かを入れたりすることがないようにお願いします。
- (4) iBEAMの取付けは備え付けの両面テープが最適で強力で固定します。これは後で取り外しが可能です。色々なテストを経て決定したクオリティを持つタイプなのでこれ以外の両面テープを使用しての動作保証はできません。



図1

iBeamの位置決め

基本的には図2のようにiBEAMをブリッジのサドル位置の裏側の同一位置に取付けます。ギターの個体差や音質的な微妙な変化を好む場合は取付け可能な範囲で任意の場所を設定して下さい。

色々なギターで試した範囲では、サドル位置に取付けた方が、弦や表甲の音に忠実なサウンドが得られます。ピックアップ位置をサウンドホール側又はブリッジ側(図3参照)に設置するとボディ内の音がより協調されミッドレンジがやや押さえられた甘い音になります。色々試した中ではややブリッジピン寄りで1弦側に1~2mmずらした時の方が良い結果の場合もありました。一度取り付けた後、場所を変えたい場合は交換用の両面テープを使って下さい。

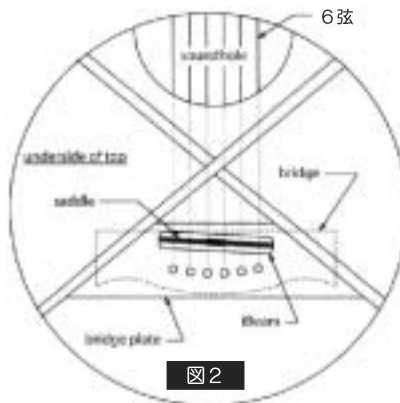


図2

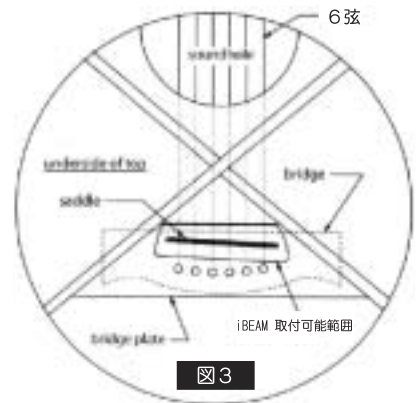


図3

取付け：ブリッジピン

- (1) 図4のようにジグを組み立ててください。
- (2) 弦ははずしブリッジピンもはずして下さい。
- (3) サウンドホールから手を入れブリッジの裏側がきれいな面となっているか確認をして下さい。確認しにくい場合は鏡を入れ念入りにチェックして下さい。iBeamを取り付ける面が平らでよごれや木のささくれ等がなくきれいになっているか十分に確認して下さい。必要な場合はペーパーをかけて下さい。
- (4) エンドピン位置にジャック用の穴を開けます。(1.2mm径が推奨)
- (5) iBEAMをギターの中に入れ取付け位置のスペース確認をして下さい。この時点ではまだ取付けはしません。エンドピン・ジャックをギターの中に入れ内側から止めるナットの位置を確認します。ギター外側から止めるワッシャー、ナット等が最適な位置となるよう全体的なバランス位置を確認してから外します。最終的な取付けはまだしません。
- (6) 図4のように取付けジグをセットし1弦と6弦の位置にセットします。
- (7) プレート状の両面テープの接着面を出します。この後、図5のようにiBEAMの接着面を上にした状態でサドルの真下又は前述のように意図して若干ずらした位置にセットします。
- (8) iBEAMがジグに乗ったままの状態ですべてをブリッジから外しiBEAM本体の裏の接着面を出します。
- (9) iBEAM本体とジャック、ジグも含めた全体をそのままの状態ですOUNDホールに入れ1弦と6弦の位置に図6のようにボルトを通します。
- (10) ボルトが出たら両方のボルトを両手で持てるようにします。この時点ではまだiBEAMを固定しません。
 - (11) まっすく上にゆっくりひっぱりiBEAMを固定します。
 - (12) iBEAMを固定したのを確認してからジグを外します。
 - (13) iBEAM本体にそってしっかりと固定されているか確認します。真ん中だけでなく両サイドもしっかりと固定されているかご確認下さい。この時、iBEAMの左右だけでなく前後の固定確認もして下さい。
 - (14) 最後にジャックを取付けます。iBEAM Activeの場合は最後にバッテリーホルダーを取り付けます。

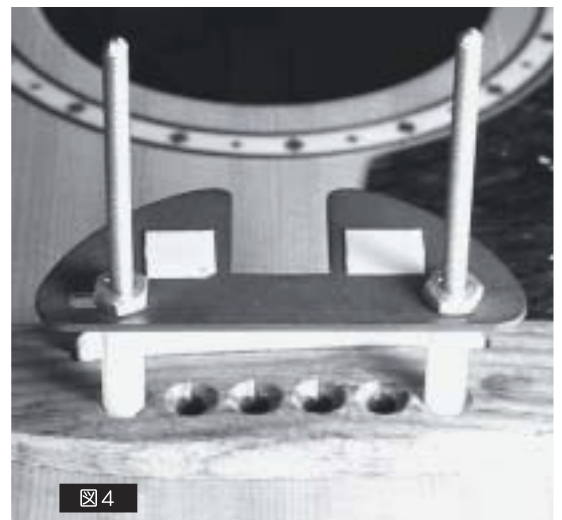


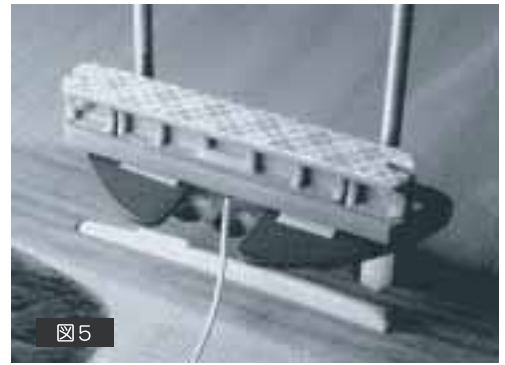
図4

iBEAMの取り外し

iBEAMの取付け場所を変えるなどで外す場合は下記の点に注意してください。薄い両面テープですがかなり強力です。時間が経つにつれ強力になって来ますので、取付け位置を間違えた又は変えた場合は1週間以内をメドにして下さい。

<取り外し手順>

- ▲まずiBEAM全体を持ち表甲と並行に真下に力をかけて下さい。はがれかけた時点で左右どちらか、iBEAMについている両面テープをカーベットを巻くときのように取ります。
- ▲その面がきれいになっているか確認した後、予備の両面テープを取り付けます。
- ▲ギター内に再度取り付ける前に両面テープ面を鉛筆などでなぞり、空気が入らないようにしっかりと密着するよう確認して下さい。
- ▲再取付けはこの取付けマニュアルの最初からと同じ要領で行います。



ユーザーガイド

■iBEAM:

iBEAMにはGigpro, Para Acoustic D.I. やMixpro等の高品質のプリアンプをご使用下さい。一般的にギターアンプよりもPAを通した方が良いサウンドが得られます。誤った使用はスピーカーやアンプを破損する可能性があり、この場合は保証対象ではありません。

■Adding a 2nd Pickup: (別のピックアップを追加する)

iBEAMはステレオ対応のジャックが付いています。別のピックアップも同時に使いたい場合は図7のようにRing側に信号線をGround Tabとなっている所にグラウンドを配線して下さい。使用時はステレオケーブルでMixProのご使用をお勧めします。追加して使用されるピックアップは出力インピーダンスの近いものが理想です。ちなみにiBEAMはHighインピーダンスです。当社のRibbon TransducerやLB-6はHighインピーダンス仕様の為問題はありますがマグネチックタイプのはほとんどLowインピーダンスで、iBEAMの信号に混ざり込む可能性があります(これをクロストークと言います)大きな問題とはならないでしょう。

■Acoustic Guitar Amps:

アコースティック用のギターアンプは極力クリーンなサウンドを持ったアンプをご使用下さい。ギターとアンプを繋げるケーブルもできれば3m以内の長さが望ましいです。またアンプ使用時はイスの上に置くなど床に直接置く場合より良い結果をもたらします。色々なギターアンプがありますがそれぞれクセがあり、アンプ選びの判断基準はマイクで声を出した時にきれいな再生をするアンプがギターにも適していると言えるでしょう。

■Equalization:

EQが必要な場合、1kHzあたりを6dBくらいカットするといいでしょう。GigProやMixProはこの点も考慮に入れた設計となっており自然なアコースティックサウンドをアウトプットするのに優れています。

■Feedback:

iBEAMの最大出力は110dB、Ribbon Transducerは108dBです。iBEAMはRibbon Transducerに比べダイナミックレンジが広く同レベルでの使用時で3~6dBはフィードバック率が低くなっています。フィードバックを抑え大音量でiBeamを使用したい場合は位相切り替えスイッチのついているGigPro, Para Acoustic D.I., Mixproの使用をお勧めします。

■iBEAM Active 2nd Pickup setup:

iBEAM Activeに別のピックアップを併用することができます。(注: Mix Outでなく、ステレオOUTです) この場合のピックアップはLow インピーダンスである必要があります。現在市販されているマグネティックタイプのは基本的に問題はありません。iBEAM ActiveではiBEAMからの信号は図8のように"Tip"側に配線されていますが図8のように"solder bump jumpers"を切り替えることで容易にTipとRingを逆にすることができます。これはステレオケーブルでなく通常のモノのケーブルを使用するとTip側のみの音になるようになっていて、追加したピックアップがマグネティックでモノケーブルを使用時はそのピックアップのみの出力とした場合に"solder bump jumpers"を切り替えます。

■iBEAM Active with the Gigpro / Mixpro:

iBEAM Activeのプリアンプにはナチュラルなサウンドが得られるよう固定のEQカーブが設定されています。GigPro/MixProもEQがフラットの状態(12時の位置)も独自のEQカーブが設定されています。iBEAM ActiveにGigProやMixProを使用する時はまずGigProやMixProのEQを全部0に絞り込んだところからスタートし徐々に上げながら好みの音を作して下さい。

図7

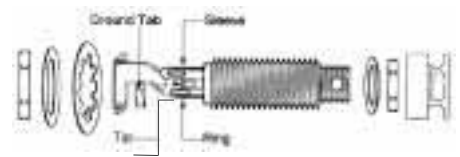


図8

